

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	平成29年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani_tru&sl_gvosyoCd=2190500153-00&pfCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」掲げ、家庭的な雰囲気作りを心がけています。「できること」は利用者様にいただき、「できないこと・必要なこと」を職員が手助けし、一緒に生活しています。隣接する畑の収穫、草むしりも皆様と行うことで季節を感じ取ることが出来るよう努めています。大きな行事は「花見」「イチゴ狩り」「運動会」「夏祭り」「クリスマス会」などを企画し、時には一泊旅行も実施しています。地域の方々とは、「運営推進会議」を始め「地域清掃」「避難訓練」「ふれあいサロン」を通して交流しています。家族様、地域の方々の見守りの中で安心して生活ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で排泄や入浴などの介護だけに捉われず、利用者のペースや思いを尊重し快適に生活を送ることができるように職員間で話し合っており、信頼関係ができています。管理者をはじめ職員同士がコミュニケーションを図りながら助け合い、やりがいを持ってケアに取り組んでいる。管理者は、事業所の行事や運営推進会議の案内を自治会役員に手渡したり、地域のいきいきサロンで認知症予防体操を行ったりして信頼関係を築いている。地域の住民が参加し利用者や交流できるように避難訓練や夏祭りなど事業所の行事を自治会報に載せてもらい多くの住民が参加している。地域の幼稚園児やボランティアが訪問したり、野菜をいただいたりするなど地域と繋がりの強い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につきやすい場所に掲示して意識づけ、理念に基づき支援を行っている	管理者は事業所内に理念を掲示しミーティングや申し送りで話し合っている。職員は家庭的な雰囲気の中で利用者の思いやペースを大切にしながら笑顔で接することを心掛け穏やかに過ごせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を始めとして、地域清掃、避難訓練、ふれあいサロンへの参加を通して交流を続けている	地域の住民が参加し利用者と交流できるように避難訓練や夏祭りなど自治会報に載せてもらっている。職員は堤防の草刈りや神社の清掃に参加している。幼稚園児や地域のボランティアが訪問し利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンでは「認知症予防」についてお話する機会を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見を実践できることから始めている。例えば「水害対応の避難訓練」や「専門医への受診」	管理者は会議の案内を自治会役員に手渡し協力を得ている。水害について意見があり職員間で話し合い避難訓練を行った。ヒヤリハットから専門医への受診アドバイスやパチンコリハビリの情報が提供され取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各務原市の「サービス事業者協議会」に加盟、諸連絡等はメールでやり取りを行っている。「運営推進会議」でも情報の交換を行っている	市主催の会議に出席し市の担当者と意見交換している。事故報告書を提出に行ったとき状況等を報告している。市の要望で空き状況など事業所の状況をメールにて報告するなどして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い「身体拘束」を理解、「拘束をしないケア」に取り組んでいる。その中で玄関の施錠は市の指導で行っている	事業所内で計画的に身体拘束や虐待の研修を行っている。事業所前の道路は交通量が多く以前より市から指導を受けている。出来る限り拘束とならないように職員間で話し合い鍵など工夫している。急に外に出る利用者には、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で「虐待防止関連法」について学び、周知している。利用者様には尊厳をもって接することを心掛けている。言葉遣いの乱れには職員間で注意しあっている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修へ参加する機会を作り、施設内研修での勉強会に活用してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置。「運営推進会議」へのご参加で意見を頂く機会を設けたり、常日頃より職員と会話する中で要望を聞けるよう努めている	家族の来訪時や電話で利用者の近況を報告し意見や要望を聞いている。家族より食事介助を手伝いたいと申し出があり受け入れている。散歩や外出など要望があり職員間で話し合い計画的に実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な会話はあるが、改まった機会はない。今後機会を設けていきたい	管理者はミーティングも含め、日頃から職員に意見や要望を聞いている。外部研修を職員に回覧して希望を聞き勤務を調整している。事故予防の対策や外出先、献立など職員間で話し合っており取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11-7を実現させることでやりがいに繋がっていくと考えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/月の施設内研修への参加、施設外研修参加の機会を設けているが、資格取得は現状個人が行っている。今後バックアップ体制が充実すると職員が育つ土壌となる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は多々あり、回覧で周知するが、積極的な参加が得られていない		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居にあたり、家族様より事前に「センター方式」のアセスメントで情報を頂き、不安、要望を把握する材料としている。その上でご本人と談話することで信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回サービス計画をたてるにあたり、家族様の気持ちをお尋ねしながら信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で必要なサービスを見極め、必要であれば家族様の協力も頂きながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、できる部分は行っていただき、職員の見守りが必要であれば一緒にいき、時間を共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況をお伝えしながらご本人様の状況を理解していただき、その上で家族様と職員が「何ができるか」を一緒に考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客の面会時、次回への面会へつながるよう声かけをさせて頂いている	利用者の踊りの教え子や知人が来訪した時は名前や関係を確認し再来所をお願いしている。携帯電話を持ち込んでいる利用者もいる。馴染みのお店に買い物やモーニングに出掛けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の交友関係を把握し、さりげなく座席場所を誘導するようにしている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後一か月後にその後のご様子を伺い、時に訪問することもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や関りから意向を察したり、家族様から伺ったりして把握するよう努めている。困難な場合は家族様はもちろん、職員が一番良いと思われるケアを実践できるよう話し合いを行っている	夜間帯に利用者と一緒にお茶を飲みながらゆっくりと思いや意向を聞いている。困難な場合は家族から情報を得て利用者の表情やしぐさを観察して職員間で話し合って把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて家族様から情報を得、アセスメントしたり、利用していた事業所から情報を貰い把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった職員が毎日一緒に生活することで、食事の嗜好や健康・精神状態、一日の過ごし方をほとんど把握することができている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、ミーティングを実施し、介護計画を作成している。医師とは常に連携をとるようにし、家族様とも日頃より話し合いをするよう心掛け、計画に反映させている	家族にサービス担当者会議への出席をお願いしたり、電話で意見や要望を聞いたりしている。月1回モニタリングを行い医師の意見を聞きながら職員のアイデアや気付きを取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きは経過報告書に記載し、情報を共有している。担当者会議では情報をもとに計画作成に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会資源の利用はないが、家族様と共に支援できるよう取り組んでいる		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用することができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医にこだわらず、希望の医療機関を受けていただいている。提携医以外の主治医とは時に書面やTEL、あるいは付き添いをして情報を共有し支援につなげている	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診している。家族が受診する場合は口頭や書面にて状態を伝えている。状態変化に伴いかかりつけ医から協力医に変更するなど家族と話し合いながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きは経過報告書に記載し、往診時に報告したり、時間外は訪問看護師、またはホームの看護師に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は全て情報提供をし、または頂き、スムーズに利用者様が移動できるよう努めている。入院中は訪問し、関係者との関係づくりを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りは行わない」「医療行為はできない」ことを入居前に説明している。	契約時に事業所の方針を説明している。早い時期から家族に相談し、状態が大きく変化した場合は医師とも相談し他の施設を紹介している。利用者や家族の意向を確認し、家族や医師の協力が得られる場合は意向に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/1年救急救命講習を実施しているが、できれば講習の内容を増やしていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、震災の避難訓練を自治会、消防団、消防署と連携し1回/年行っている。他、夜間避難訓練を1回/年実施。水害の避難訓練は昨年より実施	自治会や消防団など地域住民の協力を得て夜間想定や水害を想定した避難訓練を行っている。備蓄品は災害時のリスクを分散できるように1階2階に分けて保管している。	

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには配慮している。人格の尊重も意識しているが、時に思うように伝わらないこともある	職員は、対等な言い方や不愉快になることがないように言葉使いに気を付けている。排泄を失敗したり、頻回にトイレに行ったりする利用者に対しては羞恥心に配慮して声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に耳を傾け、自己決定できるよう促しや誘導をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の遅い方、入浴の順番や時間、できる限りトラブルにならないよう、一人一人のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症のため不適切な格好をされる方には、季節にそった衣類を選ぶお手伝いをし、その人らしい身だしなみを維持できるよう支援している。化粧品の使用も支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時に一緒に買い物に行くことで嗜好品を購入し、調理。また、畑の収穫を一緒に行い、調理し食卓に乗せ、食事を楽しんでいただいている。できる方は下ごしらえ、片付をお願いしている	一つのテーブルを囲んで会話しながら、利用者のペースでゆっくりと食事している。買い物時に利用者に食べたい物を聞いたり、いただいた野菜の調理方法を聞いたりして調理し献立に加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事形態、量を全職員が把握しているため、一日の水分量、栄養バランスは支援できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、常に清潔を保っている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人の排泄パターンは把握できている。声かけ、誘導して支援できている	立位が困難な利用者でも職員間で話し合っ て可能な限りトイレに誘導している。排泄 チェック表によりパターンを把握して声を掛け ている。詳細を記録することで利用者の体調 を把握しながら自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各人の排便リズムを把握しており、水分の摂取、 乳酸菌の摂取などで腸内環境から便秘に対応し ている。また、便秘にならないよう、下剤を使用 することもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望や、体調に合わせた順番で行っ ている。汚染時は適宜入浴を行うよう努めている	利用者の会話から入浴の順番や湯温など把 握し気持ち良く入浴できるように配慮してい る。希望すれば毎日でも入浴できる。職員の人 数が多かった時に夕方の入浴を試みた。 歌ったり会話したりして楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	寝具を整え、居室の清掃を行い、安眠できるよ うな環境作りをしている。人によっては抱き枕や足 枕を用意して、個人の習慣や体の状態に気配り をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の変更があると全職員が理解するのに時間が かかるため、記録をとり申し送りすることで解決 している。9名様分を完全に把握できていないが、 疑問時はその都度薬局に確認をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての利用者様が力を発揮できる毎日ではな いが、一日の中で楽しいと感じる時間を提供す ることを意識して支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるよう に支援している	一人ひとりの希望に沿うことは困難。行事として 外出を行ったり、散歩に出ることは行っている。 家族様の協力を頂ける場合はお願いしている	運営推進会議において家族より外出させて 欲しいと意見が出され職員間で話し合ってい る。家族にも外食や買い物など利用者と一緒に 出掛けてもらえるように声を掛けている。車 椅子の方も散歩に出掛けているが、その日 の希望に副った外出は難しい。	職員間で話し合ったり、運営推進会議 で意見を聞いたりして、少しでも一人 ひとりの希望に副った外出の支援が 出来るように取り組んで欲しい。

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の所持はないが、希望の方はご自分の管理で所持して頂いている。「盗られ妄想」や「管理できない方」でも所持することで安心される方は家族様の理解を受けて所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っておられる方もあり、家族様の理解があれば連絡はご自由に行って頂いている。職員が間に入り支援することも多い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有の場に食卓テーブル、少し離れてくつろぎのソファがあり、自宅にいるのと変わらない自然な空間を作っている。時に季節の花を生け、季節感を感じて頂ける工夫をしている。有線放送からその場にあったBGMを流す時間も設けている	リビングには有線放送で季節に合わせてBGMを流している。生け花の好きな利用者が花を活けたり利用者が書いた四季の掛け軸を飾ったりして季節感を醸し出している。利用者と一緒に作成した貼り絵や行事の写真を飾り話のキッカケとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	興奮気味の方は一人になれる場所への誘導をし、仲の良い方々は集えるように座席やレクリエーションの内容を適宜考えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはご家族様とご本人とで居室内への持ち込みや配置を決めておられる。生活する中で危険性があるもの、管理できないものは家族様とも相談して排除することもある。なじみの品の持ち込みをお声がけしている	位牌やタンス、三面鏡など使い慣れたものを持ち込んでいます。昔に利用者が描いた絵手紙や家族の写真を飾っている。利用者と一緒に掃除を行い、換気や室温に気を付け快適に過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」の表示を扉につけてわかりやすくしてある。個人の居室には家族様と職員の手作りの表札を表示している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	平成29年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190500153-00&PrEfCd=21&Ver:siOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」を実践できるよう、意識している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を始めとして、地域清掃、避難訓練、ふれあいサロンへの参加を通して交流を続けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やふれあいサロンの中でお話しする機会を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を実践できる事から始めている。例えば「水害対応の避難訓練」		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各務原市の「サービス事業者協議会」に加盟、諸連絡はメールでやりとりを行っている。「運営推進会議」でも情報の交換共有を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い「身体拘束」を理解し、「拘束をしないケア」に取り組んでいる。その中で玄関の施錠は市の指導で行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で「虐待防止関連法」について学び、周知防止に努めている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修は行っているが、活用する利用者様が少ないため、支援する機会が無い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置。「運営推進会議」でご意見を頂く機会を設けたり、常日頃より職員と会話する中で要望を聞けるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談がないので、今後面談の機会があるといい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11-7を実現させることでやりがいにつながっていくと考えられる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/月の施設研修への参加、施設外研修参加の機会を設けているが、資格取得は現状個人が行っている。今後バックアップ体制が充実すると職員が育つ土壌となる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は多々あり、回覧で周知するが、積極的な参加が得られていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで事前に情報を得ているが、ご本人のお話を傾聴することでさらに信頼関係が深まるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と密に交流し、要望に添う事が出来るよう関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族様のお話から、必要なサービスを検討し、提案することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生に先輩という目線から、尊敬、尊重し、学ばせていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況をお伝えしながらご本人様の状況を理解していただき、その上で家族様と職員が「何が出来るか」を一緒に考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客の面会時、次回への面会につながるよう声かけさせていただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業を提供して、相互に支えあえるよう間に入り支援している		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	後退去後一ヶ月に、その後のご様子を伺い、時に訪問することもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話を傾聴したり、家族様のお話からご本人様の思いに気づけるよう心がけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から情報が得られない時は、家族様から聞いたり、アセスメントから生活歴を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	9名様の少数単位のため、ほぼすべての職員が把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催で、職員皆で話し合うことが出来る。日頃より本人様、家族様からもご意見を伺っており、そのときに必要なサービス計画をたてている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応が難しい利用者様については、些細なことも記録し情報共有している。家族様にも理解していただくためにお話している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会資源の活用はないが、家族様とともに支援できるよう取り組んでいる		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用することができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医にこだわらず、希望の医療機関を受けて頂いている。提携医以外の主治医とは時に		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや異変は訪問看護師に伝え、指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者と情報提供し合うことで関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りは行わない」と入居時に説明している。重度化した方は主治医を含め話し合う機会を設け、文書化している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/年、救急救命講習を実施している。講習内容を増やしていきたいと思っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、震災の避難訓練を自治会、消防団、消防署と連携し、1回/年行っている。他、夜間避難訓練を1回/年実施。水害の避難訓練は昨年より実施		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮するように心がけているが、時に扉の閉め忘れをしたり、方言で口調が強くなってしまい、職員間で注意し合っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に耳を傾け、自己決定できるように促しや誘導をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の順番が、身体状況や職員の都合で決まることもあり、ミーティング等で話し合うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症のため不適切な格好をされる方には、季節に沿った衣類を選ぶお手伝いをし、その人らしい身だしなみを維持できるよう支援している。化粧品の使用も支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備、後片付けをしていた。食事中は会話が楽しめるように話題提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方の状態は把握しているので、一日の必要な食事量や水分が摂れるように形態を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをすることで清潔が保たれている。必要な方は食前に口腔マッサージする場合もある		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員に気軽に排泄の声かけが出来るよう心がけている。排泄チェック表を元に、職員から声かけもしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝水分捕球をし、ラジオ体操などの運動をしていただき、便秘の予防を行っている。頑固な便秘には医師の指示で服薬することもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診前や外出前には気分良く出かけられるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を把握しており、休憩時間を設けたり工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を説明書で確認し、副作用にも留意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の興味あることは把握しているので、花を生ける方、習字をする方、それぞれに寄り添い支援できている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出行事として支援している。家族様の協力を得ることもある		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はない。買い物は立替払いをしており、直接的にお金を使うことがない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言う希望にはお応えし、取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し、季節の花を生け、居心地良い空間作りに配慮している。利用者様作品展示もその一つである		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	交流関係を把握しているので、声かけ誘導で仲良しの方が集えるようにさりげなく支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた品の持ち込みをお願いしている。物の配置は家族様とご本人様で決められている。不都合があるときはその旨お伝えし、移動することもある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」の表示を扉につけてわかりやすくしてある。個人の居室には家族様と職員の手作りの表札を表示している		